

(事後評価)

## 学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン

(実施期間：平成 21～23 年度)

実施機関：岡山大学（総括責任者：森田 潔）

### プロジェクトの概要

#### 1) 女性研究者の具体的な取組

当学は、戦略的・体系的な改革を目指して「意識改革への挑戦」、「サポート体制の充実」及び「組織改革の実質化」の 3 本の柱を有機的に連携させ、女性研究者の雇用率が低い理系に焦点をおいて、下記の「循環型人材育成進化プラン」を実行する。

○ 進化プラン「研究サポート体制」：女性研究者のニーズに対応すべく、人材登録バンクを設置・活用し、女性研究者ごとに研究サポートグループを構築。○ 進化プラン「雇用」：ウーマン・テニユア・トラック教員制度の新設（年 3～5 名採用予定。女性は出産・育児等特有の問題を有することから、柔軟な勤務体制）。○ 進化プラン「持続性」：研究サポートグループに参画した大学院女子学生はウーマン・テニユア・トラック教員の候補生となり、かつテニユア教員に採用された女性研究者はメンター教員として次世代の女性研究者の人材育成に関与（次世代の女性研究者の循環型人材育成保証）。なお、本進化プランをスムーズに駆動させるため「システム改革支援室」を新設するとともに、メンタルサポートの相談窓口の設置のほか、サロン運営及びネットワークシステムの構築等による情報交換や、意識啓発・広報活動を実施する。

#### 2) 期待される効果

研究サポート体制の定着やウーマン・テニユア・トラック教員制度の導入等により、質の高い持続性のある女性研究者の雇用・育成が保証される。

#### (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組の内容	システム改革の成果	実施体制	実施機関終了後における取組の継続性・発展性
A	b	a	s	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

## (2) 評価コメント

研究支援員人材バンクの構築、相談室の整備、保育支援体制の充実、意識改革の取組等、意欲的な種々の取組を実施した。さらに、ウーマン・テニユア・トラック (WTT) 教員制度を導入し、女性教員増加に向けた自主的取組を実施したことが評価できる。今後は、取組の継続により意識改革が進み、女性研究者比率が増加するものと期待する。

・ **目標達成度**：人材登録バンクを活用した研究支援員事業の整備、研究スキルアップ講座の実施、WTT 教員に対するメンター教員の配置等、女性研究者のための研究サポート体制を整備し、WTT 教員として 11 名の特任助教を採用した点が評価できる。しかしながら、自然科学系女性教員の採用数、在籍割合の目標は達成できておらず、理工農学系の女性教員を増やす取組に一層勤めることを期待する。

・ **取組の内容**：研究支援員人材バンクの構築、女性サポート相談室の設置、病児・病後児保育施設及び学童保育所の新設等を実施し、運用実績を上げており評価できる。

・ **システム改革の成果**：学長のリーダーシップの下、ダイバーシティ推進本部に男女共同参画室を設置し、全学をあげてシステム改革に取り組み、女性研究者支援を推進している。特に、システム改革の成果として構築された WTT 教員制度は、若手女性研究者の採用・育成において有効に機能し、他機関に対しては先導的なモデルとなっており高く評価できる。

・ **実施体制**：学長のリーダーシップの下、ダイバーシティ推進本部に男女共同参画室を設置し、事務局との連携により全学的な推進体制を整備しており評価できる。

・ **実施期間終了後における取組の継続性・発展性**：事業実施期間終了後も予算が確保されており、ダイバーシティ推進本部と男女共同参画室は継続して設置される。主要な取組の継続実施が決定されており、今後の継続性・発展性が期待できる。